

世界が憧れる暮らし方



Living My Dream Life

in ぶじのくに

ブラジル・サンパウロ出身、静岡市在住

宮城 ユキミさん

1994年ブラジル・サンパウロ生まれ。静岡文化芸術大学国際文化学科で多文化共生について学び、外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援にも携わる。同大学の卒業証書授与式では卒業生の総代として謝辞を述べる。夢は外国と日本の架け橋になること。性格は好奇心旺盛で快活。静岡市在住。



外国にルーツを持つ子どもたちにも夢や希望を与えたい。



日本語、英語、ポルトガル語などを操りながら、通関の書類を作成する宮城さん。「もっと勉強したい」という向上心が尽きることはない。



国際交流や多文化共生の講演会で自らの経験を語ることが多い宮城さん。写真は2015年、ブラジル・サンパウロで行われた講演会。

宮城ユキミさんが家族とともにブラジルから浜松へやって来たのは10歳の時。「最初はひらがなも読めませんでした。日本語を学ぶうちにポルトガル語を忘れていくことに気づいて焦りました」と宮城さんは振り返る。「母国語をもっと学びたい」という思いに駆られた宮城さんは、浜松市立高校のインターナショナルクラスを志望。「あなたならできる」という恩師の言葉を信じ、猛勉強の末に合格を果たした。高校では同じ境遇の生徒と出会い、外国にルーツを持つ子どもが日本語の難しさや理解しがたい文化に不安を抱き、漠然と大学進学を諦めてしまうケースが多いことを知る。そこで宮城さんは「私がロールモデル

になる」と決意。再び勉学に励んで静岡文化芸術大学へ進学し、現在はブラジルにも拠点を持つ鈴与株式会社で貿易の業務に従事している。

来日直後は言葉が判らず、友人もいなかったという宮城さんは「やればできる」を支えに夢を叶え、同時に自分と同じような子どもにも希望を与えてきた。しかし、その言動以上に人を励ますのは晴れやかな笑顔だ。宮城さんの明るい表情に接していると誰でも自然に元気が湧いてくる。そんな存在感は将来に不安を抱く子どもだけでなく、世界中の人たちのロールモデルになり得る“人としての魅力”にあふれている。